

向花舞鶴クラブ (霧島市)

発表者：富永義克氏

こんにちは。

私は、霧島市国分向花町の老人会、向花舞鶴クラブの会長を務めております富永でございます。

私たちが住んでおります国分向花町は、世帯数約300の中程度の集落でございます。近くには国分駅やソニー国分工場、あるいは地域内には大型店舗、病院等も多数あり、また、鹿児島空港、霧島温泉地区には車で15分余りという大変便利なところでございます。

私どもの向花舞鶴クラブの沿革を申し上げますと、高齢者の健康増進、福祉増進、融和・親睦を深めたいという機運が高まりまして、昭和38年に「向花老人会」として発足いたしました。しかし、老人会という言葉に抵抗を感ずるという声もありましたので、平成18年に「向花舞鶴クラブ」と会名を改称して今日に至っております。

会員数でございますが、最も多いときは100名を超しておりましたが、いろいろな理由によりまして次第に減少し、今年度は男性会員36名、女性会員44名、合計80名でございます。

活動の目的は、3つあります。

まず1つは、高齢者の健康・福祉の増進と融和・親睦を高める。

2つ目は、地域の発展・まちづくりに寄与をする。

3つ目は、伝統行事の継承と発展に寄与する。

という3本柱を掲げまして、明るく楽しく活動をいたしております。

以下、年間の主な活動事例についてご紹介いたします。

まず、健康を進める活動でございますけれども、毎年6月には向花舞鶴クラブ主催のグラウンド・ゴルフ大会を実施します。また、霧島市老人クラブ連合会主催のグラウンド・



ゴルフ大会、ゲートボール大会、さらには地域自治公民館が実施しますグラウンド・ゴルフ大会、ウォーキング大会に積極的に参加を勧めております。

さらにまた、地元公民館の事業であります「健康生きがい推進モデル事業」というのに毎月1回ずつは参加をして、健康体操、健康講話等を受講し、健康管理意識の高揚に努めております。

次に、会員相互の融和・親睦を深める活動でございますが、毎年4月には近くの霧島温泉あるいは丸尾温泉に日帰り研修旅行、年末の忘年会、年度末の通常総会終了後の懇親会等を実施しまして、明るく楽しく歌ったり踊ったりしております。また、こういう場合は、日ごろ入手しづらい情報、例えば寝たきり老人、独居老人、長期入院患者等に関する貴重な情報の入手あるいは情報交換の場でもあります。

次に、地域の発展・まちづくり事業への寄与について紹介いたします。



毎年5月、7月、9月には、公民館事業として環境一斉奉仕作業が行われておりますが、これに便乗しまして、地域内の公園の除草あるいは主要道路の空き缶やごみ拾い、ロードミラーの汚れふき、溝さらえ等を実施をしていますが、毎回50名から60名の会員が

参加をして汗を流しております。

また、5月、8月、11月には、地域内の公園の四季の花の植え替えを実施していますが、余った苗は会員の自宅に配布しまして、花いっぱい運動を続けております。ちなみに、平成18年度には霧島市から環境美化優良団体として表彰を受けております。



友愛活動としましては、女性委員、女性会員によります、独居老人、寝たきり老人への声かけ訪問、ご不幸のあった家庭へは役員が交代で弔問したり、あるいは長期入院患者等の見

舞いを続けております。

交通安全活動について申し上げます。

市内には5つの大きな道路が交差する向花五差路という交差点がございますが、ここは朝晩、通勤者・通学者で大変混雑します。そこで、小学生・中学生が登校する日の朝はクラブ役員が交代で交差点に立哨しまして、小学生・中学生の道路横断の誘導、あるいは霧島地区交通安全協会の広報車をお借りしましての交通安全広報活動、さらには敬老会、忘年会等のときに霧島警察署交通課の警察官、霧島地区交通安全協会の交通指導員の派遣を要請しまして、道路交通法の改正点の説明とか、あるいは最近の事故事例の紹介、高齢者の自転車の乗り方その他について、ビデオ、腹話術、マジック等を交えながら明るく教育をしていただいております。おかげをもちまして、ここ15年余り交通事故による大きな死傷事故は発生しておりません。

3番目に、伝統行事の継承と発展についての活動を紹介します。

地元自治公民館の下部組織として「向花子ども育成会」という組織がありますが、年間行事としまして、六月灯、七夕祭り、十五夜行事、クリスマス会といったような主要行事がございます。6月下旬には六月灯、七夕祭りの行事が行われますが、これは舞鶴クラブ



が全面的に支援をしております。内容は、男性会員は灯籠を下げるやぐらの作成、女性会員は、子どもたちが作ってまいりました灯籠に飾りを作って張りつけたり、あるいは七夕を作っ

たりして加勢をしております。

十五夜行事は9月の下旬に行われます。これは男性会員が大活躍をしております。前日に地元建設業者をお願いしまして砂を運んでもらい、当日の朝7時ごろから約2時間かけて、男性会員20名余りで土俵を作ります。土



俵が出来上がりましたら、けががないように参加者全員で神事を行い、安全を祈願しております。十五夜の綱引き・相撲大会は当日の夕方行われますが、この相撲大会の行司は男性会員が交代で務めております。

次に、霧島市には舞鶴大学という学習会があり、毎月1回学習会が行われておりますが、特に11月は「現代っ子とともに」と銘打って、地元の小学校に集まりまして子どもたちとの意見交換をしております。内容は、例えば5年生、6年生に対しましては、戦争の体験談あるいは人生訓、あるいは自ら体験した美しい話、楽しい話等を話して聞かせ、子どもたちの意見を聞いております。4年生以下の子どもたちに対しましては、昔の遊び、例えば竹トンボづくりとか、竹馬あるいはおはじき、そういう昔の遊びを紹介し、作ってやり、楽しく遊んでおります。ちなみに、今年度は11月の「現代っ子とともに」という学習会では、子どもたちの将来の夢、希望について話すことになっております。

以上、舞鶴クラブの主要行事について説明をいたしました。この事業を実施するためには、ある程度の予算が必要になります。そこで、会員からは年会費として2,000円、ほかに霧島市老人クラブ連合会国支部から助成金6万円余り、地元自治公民館から2万円の助成金その他で賄っております。

最初に申し上げましたが、いろいろな事情で会員が毎年少しずつ減っております。高齢者の高齢化によります長期入院患者の増加、あるいは会員の死亡、子どもたちに引き取られていくための転居等ありますが、これは自然の摂理として致し方のないことだと思っておりますけれども、今後は、霧島市、地元自治公民館ほか関係機関の協力を得まして会員の勧誘に努めて、会員の増加を図りたいと考えております。

以上、舞鶴クラブの活動事例の一端についてご説明いたしました。今後はますますの福祉の増加、地元自治公民館への協力、伝統芸能の発掘・継承と寄与に努力していきたいと考えております。

以上で私の発表を終わります。ご清聴、誠にありがとうございました。